

生きること

浜寺石津校 三年

草川 璃桜

わたしは、小さい時から、お母さんによく

「自分が言われてイヤな事は、言うな。」

「自分がされてイヤな事は、するな。」

「人にめいわくをかける事は、するな。」

と、言われてきました。

わたしが、病気になつて入いんした時、弟と妹が、しせつに入る事になりました。たいいんして学校に行くようになつても学校の先生たちに色々、おねがいする事になりました。

わたしの体調が悪くなつて病いんに行った時、夜の十二時を過ぎて点てきをしているわたしのそばに、お母さんは、ずっと付いていてくれました。わたしは、たくさんの人たちに、めいわくをかけているなと思つて、

「りあ、みんなにめいわくかけてる？」

と、お母さんに聞いた事があります。

すると、お母さんは

「めいわくじゃなくて、助け合つてるだけ。」

と、言いました。

わたしが病気になつた時お母さんは、わたしに病気の事を話すかどうか、すぐくやんだそうです。でも、病気の事、手じゅつをしないと死んでしまう事や手じゅつをしても、しょうがいが出たり大へんな事などを、ちゃんと話してくれました。

その時、わたしは

「りお、生きるから、手じゅつをする。」
と、言いました。

お母さんは、ずっとないていました。

入いん中、病とうには、色々な病気の子どもたちがいました。耳がない子、頭がすぐく大きな子、指が全部くついている子、ずっとベットでねている子、わたしと同じしゅようで手じゅつをした子など、色々な病気の子どもたちと一しよに、すごしました。その時、わたしと同じ学年の子が入いんしてその子は話す事も、動く事も全ぜん出来ません。口からごはんを食べる事も出来なくて、直せつおなかに、くだを通してそのくだに流動食を入れて、ごはんを食べます。

そのお母さんが、ずっと前にその子と一しよに死のうと思つた事があると話しているのを聞いた事があります。だけど今は、わらつてその子に話しかけたり、お世話をしていました。なんで死のうと思つたのか、死のうと思つてから今、わらつてその子と生きているのか分からないけど、わたしは生きていてくれて、よかつたと思いました。なぜなら、そのお母さんと、その子に会う事が出来たからです。

わたしと同じ病気で死んでしまった人たちもいます。だけど、わたしは、今、生きています。

病気の人が生きる事は、すぐく大へんだけど、たくさん助けてもらつて、自分でも一生けん命、生きています。

病気の人でも元気な人も、一人で生きるのはとてもむずかしい事だと思ひます。

お母さんが言つてたように、生きる事は、助け合う事だと思ひました。